

学界消息

史学研究会関係

史学研究会一〇月例会

一〇月三日(土) 午後一時

於京都大学文学部第一教室

アメリカ革命と農民運動 今津 晃氏

社会運動としてみた米騒動 渡部 徹氏

国史関係

読史会例会 (いずれも於陳列館演習室)

七月一日(土) 午後一時

明治三十年代の労働運動 山本 四郎

文化史と唯物史観 三品 彰英

九月一二日(土) 午後一時

興福寺莊園に關する一考察 熱田 公

秩禄処分と七分利付外國公債 杉井 六郎

一〇月一〇日(土) 午後一時

明治後期における資本主義の発展 鈴木 良

畿内古社寺の古文書・古書の調査 堀池 春峰

東洋史関係

旧制大学院会例会

である。江戸時代の北風家は説明するまでも

ない著名の豪商、問屋であつたが、維新の変

動に対処するをえず、明治一八年に没落し

た。この日誌は明治三年一〇月朔日より九年

四月二四日にわたつており、その一カ月後に

筆者喜多氏は急死した。原因は明らかでない

が、五月一日に金融蹶跌して北風家が休業の

止むなきに至つているので、或はそれと関係

あるかも推測されている。内容は、簡単な

メモ形式で、加えて公私混淆して記入されて

いるため、この時期の北風家にかんし何らか

のまとまつた資料をえようとするのは困難で

ある。が、通商司・為替会社・加賀藩兵庫製

鉄所等々についてのさまざまな事実が記され

ているので、それらの研究には一読の価値も

あろうか。ビール・シャンパン・ヒール・ニウ

ルスベエハ(新聞)だのコーヒーの到来、そ

れに兵庫で始めて(?)の牛肉のすきやき会

といった文明開化期の社会風俗を知る資料も

多い。

(昭和三四年六月刊、A5判三三二頁、頒価

四〇〇円、神戸市兵庫区永沢町四ノ二四石阪

孝二郎) (朝尾直弘)

研究篇は、「元文三年の刈谷領徒党強訴」

「幕末刈谷領情勢」「嘉永六年(一八五四)の

重原代官所」「譜代の研究」の四論文をおさ

め、史料篇は、大別して刈谷町方関係文書・

元文三年刈谷藩領徒党強訴一件・安政六年刈

谷藩財政関係史料およびその他雑文書に分つ

ことができる。物価篇は、宝暦六年から明治

二年までの刈谷町の物価の変動を、白米・黒

米・糯米・黒糯米・春麦・大豆・小豆・燈油・

有明油・胡麻油・魚油・酒・銭の一三種につ

いて明らかにしたもので、地方物価の動きを

系統的に知りうる数少い資料の一である。近

世経済史の底辺をなす基礎的作業であり、筆

者個人としてはこの部分に最も興味をひかれ

た。

(A5判二八五頁、昭和三四年五月刊)

(朝尾直弘)

石坂孝二郎編

兵庫津北風家惣支配役

喜多文七郎日誌

紹 喜多文七郎は兵庫北風家の明治初年におけ

る金方役、のち昇進して惣支配役を勤めた人